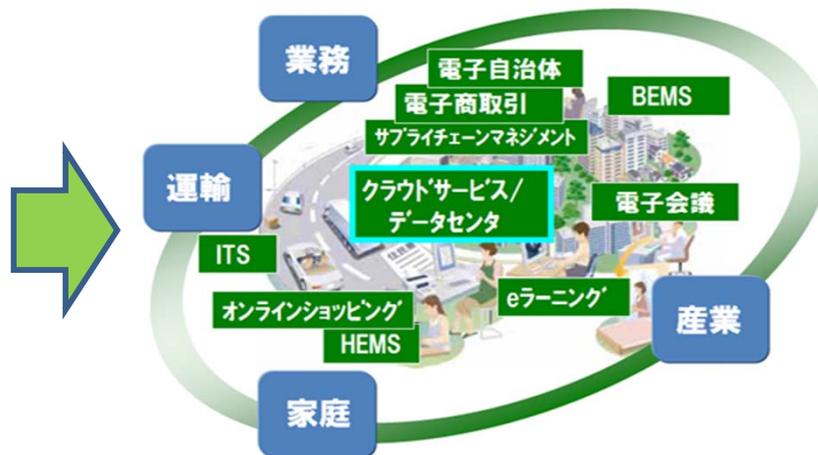


ITの高度活用による世界最先端のスマートな社会実現に向けた取組み

高度データ利活用の促進に向けた仕組み(基盤・制度)作り

- ◆ ビッグデータの利活用の推進(分析・活用技術)
- ◆ 公共データのオープン化(オープンデータ利活用強化)
⇒ I-model 2.0提案(*参考資料ご参照)
- ◆ マイナンバー制度の更なる応用に向けた提言・働きかけ
- ◆ 利用者視点でのスマートなサービスの提供
- ◆ 上記実現に向けたIT基盤やビジネスモデルの構築
- ◆ 情報の保護と利活用(個人情報・プライバシーの保護とデータ活用の両立)
- ◆ データ利活用におけるルール作り等海外連携促進



- ◆ モバイル、クラウド、ビッグデータなどの利活用による医療・ヘルスケア、交通、エネルギーなど社会全体の高度化、産業の活性化
- ◆ オープンデータ整備とデータ流通・活用制度の整備による新規ビジネス創出と既存産業の高度化
- ◆ マイナンバー制度の更なる応用によるOne-Stopな電子行政・民生サービス

ビッグデータ利活用の推進

◆ビッグデータ利活用の課題と利活用への道筋

- 欧米の関連動向から、利活用の課題・論点を整理
- 個人情報やプライバシー保護とデータの流通・活用の両立(匿名化技術/プライバシー・バイ・デザイン/産業分野別の制度)
 - プライバシー(個人)、セキュリティ(国内)、サイバーアタック(世界)対応
 - ビッグデータから価値を生み出すデータサイエンティストの育成

◆ビッグデータ利活用の仕組み

- 防災等の観点も踏まえ、ビッグデータ利活用に必要な処理機能を、社会インフラ分野の情報利活用モデル(I-model)として提案

政府等が有する公的データのオープン化

◆オープンデータ利活用強化とソフト産業の活性化

- 国内外の関連動向から、ソフトウェア産業にとって利用価値の高いオープンデータに向けた課題と求められる施策を整理
- オープンデータへのアクセス性向上(データカタログ、機械可読なデータ形式)
 - 著作権処理の煩雑化を防ぐためのデータライセンス

◆オープンデータ利活用の仕組み

- 公的データに加えて、緊急時や公益性の高い用途に資する民間データの活用
- 様々な社会インフラの情報をストックする仕組みを「I-Databank」として提案
- 政府CIO機能の活用による、自治体・省庁間データ連携

利用者視点でのスマートなサービス

◆スマートな社会やサービスの将来像

国内外のスマートなシステムやサービス事例を参考に、ユーザに付加価値を提供する「スマートさ」を定義

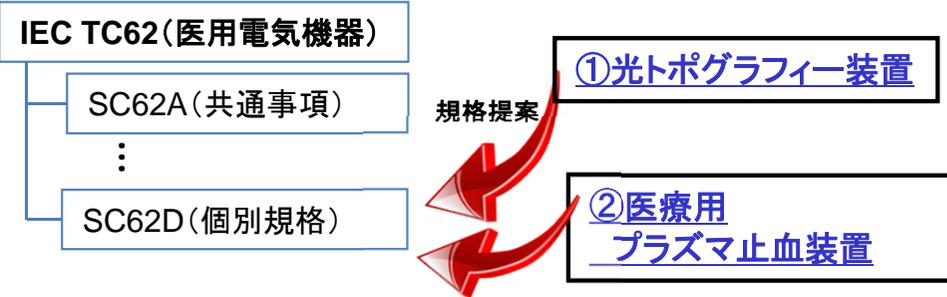
$$\text{スマートさ} = \text{制約の克服} \times \text{価値の醸成}$$

◆スマートさを高める要因

- 個々の特性や状況等を把握し、それぞれに配慮の行き届いた「きめ細やかさ(considerate)」
- 多様性のあるユーザの誰にでも隔てなく便益を提供する「隔てなさ(universal)」
- エネルギー、医療、農業、モビリティ、高齢者支援等、多様な分野での利活用
- Japan Qualityを備えた世界一のスマートな社会システム・サービス実現を推進

医療・ヘルスケアの推進に向けた取り組み

◆次世代医療技術として注目されるプラズマ技術等、日本発の新医療機器の国際規格(安全規格)提案



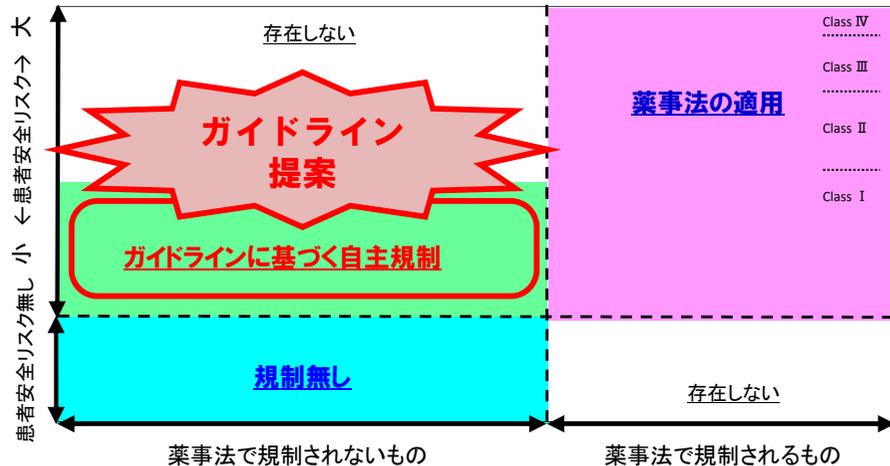
- ①光トポグラフィー装置 2015年3月規格制定を目指す。
日立製作所、日立メディコ、島津製作所、浜松ホトニクスなどが規格開発に参加。
- ②医療用プラズマ止血装置 2013年4月上海会議提案→2016年4月規格制定を目指す。
産業技術総合研究所を中心にて規格開発。

◆医療用ソフトウェアのガイドライン作成

新たな薬事法規制との連続性を保った上で、以下を考慮した
業界自主基準の策定へ

- 医療産業・ヘルスケア産業の創出
- 患者の安全リスクへの配慮
- 国際的(欧米)法規制、規格との整合性の確保

医療用ソフトウェア概念図



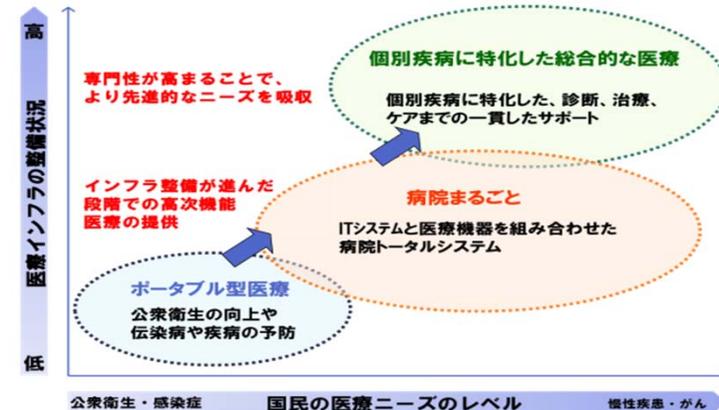
医療・ヘルスケア新ビジネス創出を目指して

医療ITイノベーション戦略研究会を設置

◆日本型医療システムの海外展開推進

医療インフラ整備状況(国情による経済状況)や地域性を考慮した最適医療システムのあり方(都市部/過疎部、離島)

- 病院まるごとモデル
- 個別疾病に特化した総合医療モデル
- 移動型、ポータブル型モデル



◆遠隔医療・在宅医療促進に向けた規制・制度改革要望

- 病院-在宅間での医療データの一元管理とデータ活用手段の実現
- 特定健診の保険指導におけるITを活用した遠隔面談の実現
- バイタルデータ、モニター、医療機器等の操作者限定条項の緩和
- オペレーションセンター基準の改正
- 感染予防に資する情報の電子化とその利活用
- レセプトオンライン化の完全導入
- 電子処方箋による運用の容認 など

安心・安全で利便性の高い車社会の実現に向けた取組み ～ITSの推進

ITSの普及促進

- ・CETAEC JAPAN等イベント展示
- ・ITS世界会議、東京モーターショーとの連携イベント
- ・セミナー開催など

政策提言・施策推進

- ・ITSの推進に向け、政府への働きかけ(パブリックコメントの提出、要望提出等)
- ・関連省庁・関連機関との連携

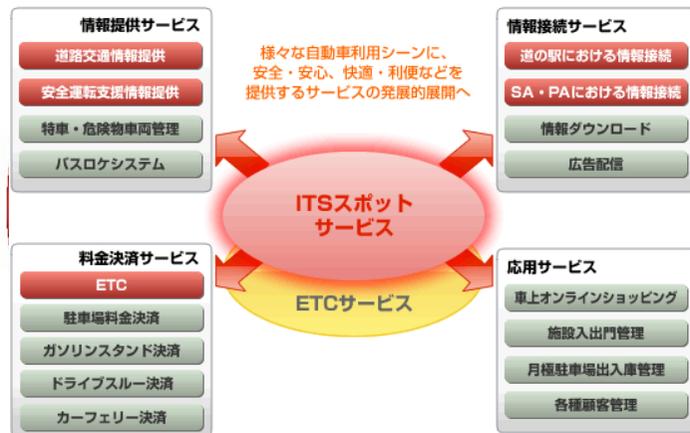
ITS新分野の研究

- ・エネルギー・衛星など、他産業との連携
- ・プローブ情報などのデータ活用

利便性

高度道路交通システム (Intelligent Transport Systems) の実現

安心・安全



出典:国土交通省ホームページ

利用拡大支援

- ・JEITA規格の運用・改訂
- ・車載器とスマートフォンなどの機器やサービス連携の検討

国際標準化活動

- ・ISO/TC204国際会議対応
WG15(狭域通信)、WG16(広域通信)
WG17(ノーマディックデバイス)
- ・日本提案の検討



CEATEC JAPAN 2012展示

グリーンITの普及による社会全体の省エネ推進に向けた取り組み

◆ IT機器自身の省エネと、ITソリューション/サービスによる社会全体の省エネを推進することで、ITを核としたスマートな社会実現の一翼を担う。JEITA内のエネルギー関連の各種取り組みとの連携を図り、当業界の環境技術を日本の強みとして、新たなビジネスチャンスの創出に向け、海外インフラ市場における日本企業の優位性確保に貢献していく。

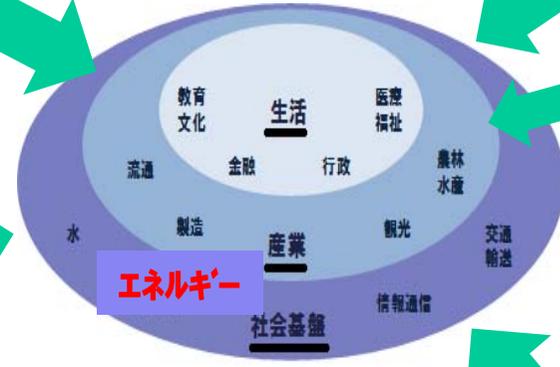
- ◎データセンター評価指標の開発と国際標準化への取り組み
- ◎ITによる省エネ効果の算定方法の検討
- ◎アジアにおける工場省エネ診断、普及啓発活動、スマコミ動向調査
(IS部: グリーンIT委員会)

クラウドサービスの普及に向けたビジネス環境整備
(IS部: ソリューションサービス事業委員会)

グリーンIT

クラウド・コンピューティング

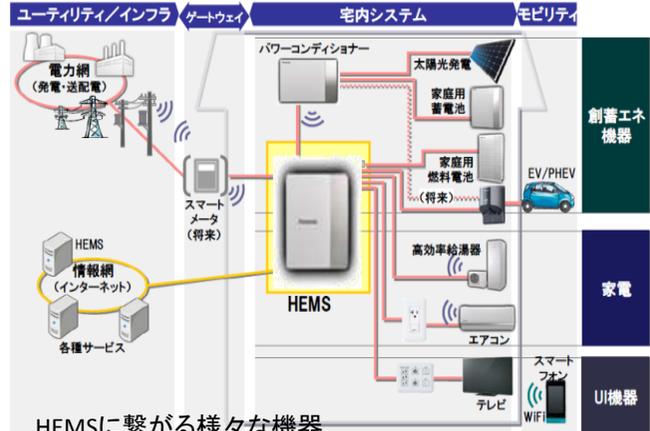
センサ ◎ 結末点としてのセンサの広範な活用



ホームネットワーク

工場やオフィスのエネルギー需給をコントロールする「連携制御」の導入促進
(IS部: 制御・エネルギー管理専門委員会)

◎ECHONET Lite規格の国際標準化の推進
(CP部: AV&IT標準化委員会/TA9対応標準化G)



スマートコミュニティが対象とする社会システム構造



**機器住宅
オフィス
工場の
省エネ**

